

高山驛なみ町



伝建地区制度の40年と 伝建地区のこれから

皆様からの「地域や町並み」に関する身近なニュースや、ご意見、ご要望など、各保存会 会長様 までお寄せください

文化財保護法が昭和50年に改正され、伝統的建造物群保存地区の制度が創設されました。平成24年には、選定された地区が100を超え、昨年、創設40周年を迎えました。

栄えあるW受賞



10月15日 東京都千代田区の文部科学省講堂において、その記念すべき年に、現代社会における伝統的建造物群保存地区の制度の在り方・役割を議論するシンポジウムが開催され、講演に先がけて、日頃の取り組みや保存活動を評価された全国の6団体に感謝状が贈呈されました。

飛驒地域では、上三之町の住民らが組織する**恵比須台組町並保存会**と、**白川郷荻町集落の自然環境を守る会**とがW受賞するという快挙。

高度経済成長期（昭和30年頃から昭和47年頃）の開発ブームの中、観光都市として発展する反面、宮川は家庭排水などにより汚れ、歴史的・文化的資産の破壊が問題視されるようになります。

こうした中、昭和47年に高山市市街地景観保存条例が制定されますが、これは行政としての町並み保存の始まりであり、先がけて昭和30年代後半に河川美化を中心とする環境保全活動が起こり、昭和41年に上三之町町並保存会（後に恵比須台組町並保存会と改名）が結成されました。いずれも地域住民レベルの自発的な取り組みです。



文化庁長官より感謝状を受ける
恵比須台組町並保存会 久田理事

らし・まちづくり・防災・観光・子育て・教育…という都市整備に推進することとなりました。また、それらの経緯と実績が、他地域の町並み保存に多大な影響を与えたのです。

昭和37年に、長野県木曾郡南木曾町の妻籠地区内の有志によって、失われつつある歴史民俗資料保存のために作られた「資料保存会」が始まり。その後、木曾十一宿の一つである妻籠宿の景観を地域づくりに活かそうと、昭和43年、地区全戸加入組織として「妻籠を愛する会」が発足。

■他の受賞団体 紹介

※順不同

① 全国伝統的建造物群保存地区協議会

伝統的建造物群保存地区を持つ8市・3町・2村の13市町村によって昭和54年に発足。保存地区の歴史的町並を保存するための様々な情報を収集・相互共有・発信するため、講演会の開催・写真パネル展・ホームページ開設などを行う。

③ 奈良井区文化振興委員会

昭和46年に、長野県塩尻市の奈良井宿のガイドマップ作成・自主防災を行う組織として「奈良井宿保存会」が設立。昭和52年に「奈良井宿保存委員会」となり、昭和53年に楢川村奈良井宿が重要伝統的建造物群保存地区に選定され、平成24年に改組して「奈良井区文化振興委員会」となった。市条例で定める審議会とは別に、「奈良井宿保存審議会」を開催し、行政と住民が一体

平成27年10月現在、90市町村が加入。「文化遺産としての歴史的町並の保存と活用」・「地域の文化と住民の生活文化の向上」のため、各地で積極的な取り組みを進めている。

② 公益財団法人

妻籠を愛する会

お寄せいただきましたご意見などは、編集して本誌等でご紹介させていただきます

掲載にあたっては、個人が特定されることのないようにいたしますとともに、取り扱いには、十分注意いたします

となり、保存活動に取り組んでいる。発足から40年、世代交代が進む中で、保存活動の記録化を進めると共に、新たな課題への対応へと引き継がれている。

④白川郷萩町集落の自然環境を守る会

昭和46年に、合掌家屋を含む地域内の資源について「売らない・貸さない・壊さない」の保存三原則を柱とした「白川郷萩町集落の自然環境を守る住民憲章」を制定し、萩町住民全員を会員とする「白川郷萩町集落の自然環境を守る会」が設立した。

昭和51年、白川村萩町が重要伝統的建造物群保存地区に選定される。今年、選定40周年の節目を迎え、活動スロークラウドとして「守る・くらす・つなぐ」を掲げ、活動の充実と継続に取り組んでいる。

⑤大森町文化財保存会

昭和32年、島根県大田市大森町全世帯が加入し設立。石見銀山遺跡や町内の社寺に自費でのサイン設置・清掃などの活動に取り組んできた。昭和44年には、石見銀山が国史跡に指定され、昭和62年には大田市大森銀山が重要伝

統的建造物群保存地区に選定された。

「憩いの場」整備事業

「憩いの場 整備事業」をご存知ですか？

平成14年度〜24年度、宮川東地区の観光要所をつなぐ周遊路の整備・伝統的な生活感の残る横丁の修景整備が実施されました。その周遊路沿いには、昭和55年度（上二之町・上三之町）が高山市三町伝統的建造物群保存地区として国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された翌年）から平成14年度にかけて整備された107箇所の「まちかどスポット」の内のいくつかが点在しています。

国道158号沿 江名子川 寶橋脇のスポット



江名子川 映芳寺の前のスポット



これらの整備により、伝建地区〜まちの博物館〜江名子川筋〜東山遊歩道をつなぐ周遊ルートが完成しました。観光客を新たなエリアへ誘導することにより、歴史的風致を維持向上させ、まちの活性化にも繋げようというのが狙いです。しかし、整備後30年以上経過し老朽化した箇所もあります。また近頃は、外国人観光客が急増したことによって、それらに求められる機能も変化しています。「旅先の不便さ」「お国柄」と笑って済むこともあるかも知れませんが、健康・安全に関わるような不便さや、歴史的な建造物や豊かな自然など高山の魅力である景観を妨げるような不便さは解消しなくてはなりません。これまで**「見える場」**であった**「まちかどスポット」**は、**「憩える**

安川通りから高山図書館に抜ける「ぎんなん横丁」

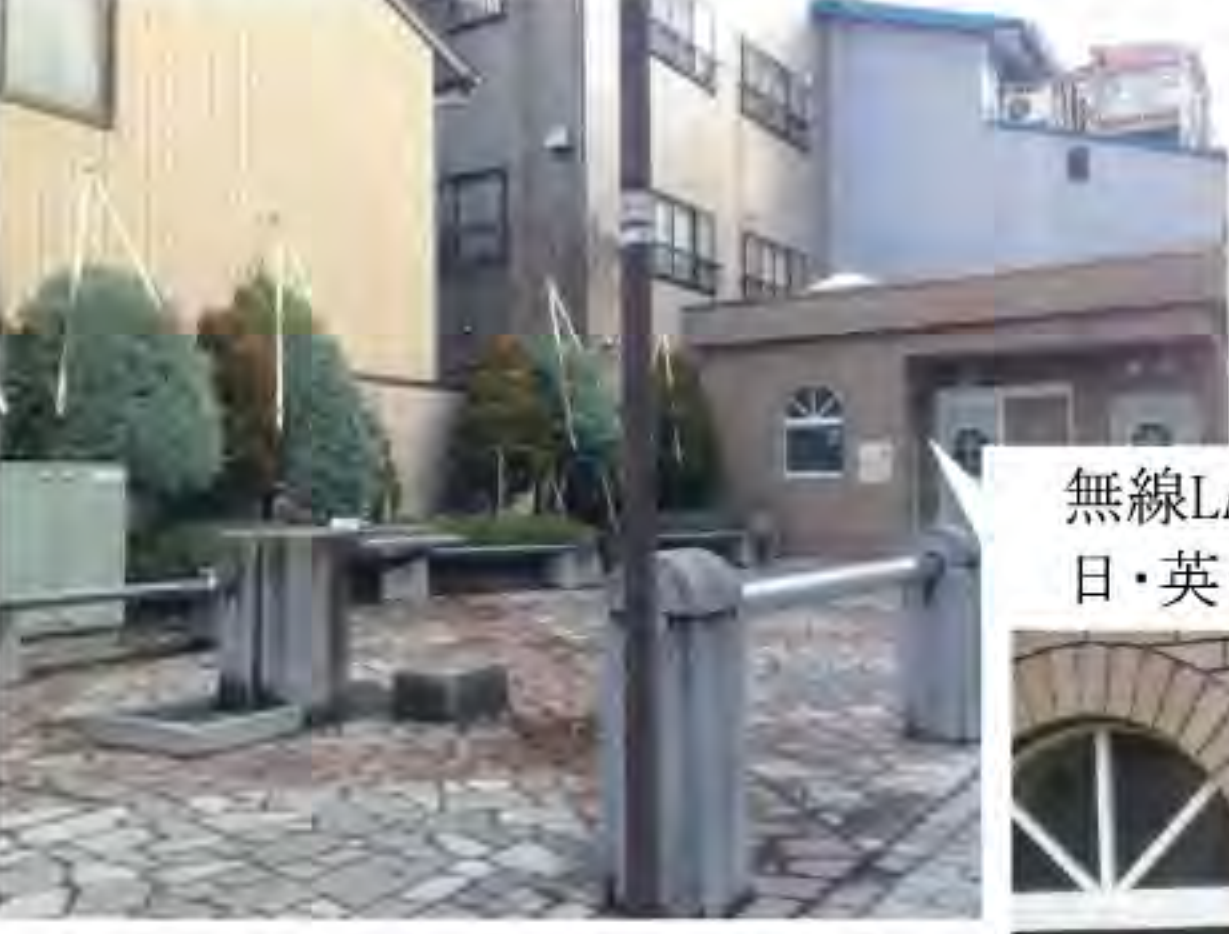


「場・使える場」への転換がせまられています。ベンチ・公衆トイレ・案内板の多言語語化は当然のこと、インターネット接続環境や観光情報・緊急情報を提供するための公衆無線LANの整備も不可欠です。

れていません。高齢者・障がい者・外国人観光客：様々な立場の人にとつて過ごしやすいまちづくりが**「憩いの場」**整備事業です。

先ごろ、宮川の中橋右岸スポットの整備が終わりまりました。この通りに並ぶ昔ながらの町家は、うっそうと茂った様々な種類の樹木に遮られ、中橋側からは見えませんでした。また、通り側から、座つてゆっくりと中橋の景観を見ることが出来ませんでした。看板・記念碑・消火設備など、様々な物が雑然と配置されていることも問題でした。

駅前中央通り 十六銀行向かいのスポット



高山市では**「住みよい町は、行きよい町」**を合言葉とするまちづくりが進めら

無線LAN (Wi-Fi) のサイン 日・英・中・韓 表記の地図



一見、緑豊かな景観だが・・・（中橋上から撮影）

宮川中橋右岸スポット整備

次号は6月発行予定

各部会の活動報告・ミニ知識コーナー・保存会の紹介：：など



整備後 開放的な憩いの場・豊かな景観



整備前 低木群とブドウ棚の圧迫感・うっそうと茂り景観を妨げる樹木

富山県高岡市

高山市景観町並保存連合会

視察研修

【神明町景観保存会
川上会長談】

「雑多に立ち並ぶ看板や樹木を取り除くことで、中橋・通り、双方からの眺望が改善されました。観光の方がベンチで休憩していらっしやる様子を見かけると嬉しくなります。今後、清掃・樹木の管理や世話などを通して、いっそう潤いのあるまちかどスポットになるよう努めていきたいと思っています。」

平成27年度 視察研修
日程／10月29日・30日

富山県高岡市には、2箇所の伝建地区があります。今回は、平成24年に選定された**金屋町**（かなやまち）**伝統的建造物保存地区**を視察しました。

江戸時代初頭、加賀藩2代目藩主 前田利長が高岡城を築く際、その城下町を繁栄させるため、現在の砺波市と高岡市の市境に位置する西部金屋（にしぶかなや）から7人の**鋳物師**（いもじ）を招き、土地や、税・労役免除の特典を与え、**鋳物**（いもの）産業普及に努めました。鋳物とは、

石川県輪島市

石川県輪島市黒島（くろしま）地区伝統的建造物群保存地区

は、平成21年6月に選定された船主（せんしゅしゅうらく）集落です。

港から港へ旅客や貨物を運ぶ単なる廻船（かいせん）ではなく、港で貨物を売り、その空いた部分に、その港の廻船問屋から船主自体が買った新たな商品を積み、



雪の重みを考慮した大きな梁・おもとに傾斜し軒を連ねている大屋根・**サマノコ**と呼ばれる格子

道路側にミセ・中庭を隔てて蔵・蔵の裏側に鋳物の作業場・土蔵や中庭を防火帯にしている工夫、これらの景観は高山の町並に似ています。

溶かした金属を型に流し込んで固め造るものことです。ところが利長は入城してわずか5年で他界。さらに幕府の制により高岡城は廃城。城下町存続の危機に際し、3代目藩主である利常によって商業の町として再興が行われました。



黒島地区保存会の方々との交流

次の港でまた貨物を売り、再び新たな商品を積むという効率的な運航を行い、利益をあげていました。この廻船は北前船（きたまえぶね）と呼ばれ、本州で仕入れた酒・衣料品・タバコ・薬・塩・砂糖・紙・米・ロウソクなどの生活物資を売買しながら北上し、北海道で主に海産物を仕入れて、売買しながら畿内方面へ向かうという1年がかりの運航をすること、利益は現在の額で約1億円にもなったと言われています。黒島には港が無かったので、船は沖合に停め、小舟で貨物を運んでいました。したがって、交易港としてではなく、船の関係者の住宅地として発展したのです。町並みには、黒瓦・格子戸・下見板張りの独特の様式を持つ伝統的な建物が数多く残っています。

お知らせ

町並保存部会 活動報告

町並保存部会は、平成25年3月に市景観町並保存連合会が設置した3つの専門部会の1つで、主な活動は町並み保存のルール作りや、市に対する要望を行うことです。

昨年27年11月3日、活動の一環として、看板・空き家・駐車場・ポスターなど実際に町並を視て廻る「町歩き」を実施しました。3人ずつ3グループに分かれて町歩きをした後は、撮影した写真を使い、皆で意見交換を行いました。



まち歩きの様子

- ① 色・形・素材・デザイン
・大きさなど、今後参考にしたい看板について
- ② 設置場所を改善して欲しい看板・エアコンの室外機・自動販売機について
- ③ 駐車場案内看板のデザイン



まち歩き後の意見交換会の様子

「定期的にパネルディスカッションを行うなどとして勉強会を開催しているが、町歩きを行うことで、具体的な問題点や、優れた事例に気づくことが出来ました。今後も勉強会を積極的にを行い、行政と協力しながらより良い町並保存を目指したいと思います。」

⑤ 看板や案内板の分かりやすい外国語表記の仕方について

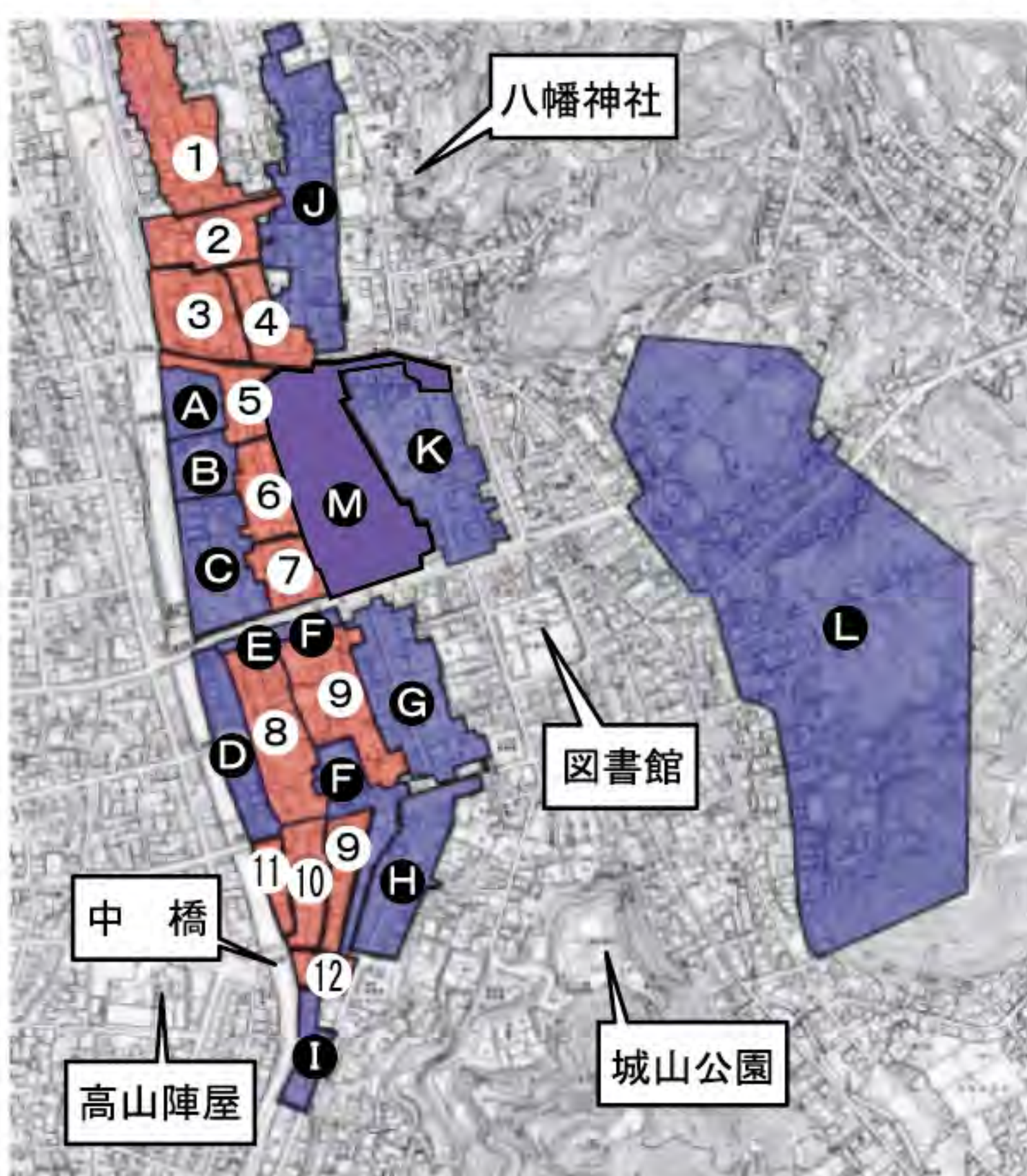


まち歩きの様子

④ 空き家・空き地の対策

高山市の伝建地区・景観保存地区の保存会 Vol.8

高山市景観町並保存連合会は、高山市市街地景観保存区域の13の景観保存会と、高山市伝統的建造物群保存地区の11の町並保存会で組織されています。ここでは各号、保存会をご紹介します。



※ 左図 M が、先ごろ新たに指定された下一之町保存区域



はちまんまち
保存会名：八幡町 景観保存会（地図 J）
保存会長：山本 正弘(やまもと まさひろ)さん
会員軒数：99軒
該当町内：八幡町
主な目印：櫻山八幡宮・八幡櫻町秋葉社
主な行事：年1回の研修旅行・防災訓練・花苗の配布
会の実績：希望者へクレマチスの花鉢配布・伊根町への研修旅行と、記録VTR・アルバム作成



ほうじゅたいぐみ
保存会名：宝珠台組 景観保存会（地図 A）
保存会長：光賀 隆之(こうが たかゆき)さん
会員軒数：21軒
該当町内：下三之町五班
主な目印：屋台蔵・秋葉社・宮川朝市通り・弥生橋・千鳥橋・江名子川
主な行事：櫻山八幡宮例祭時の屋台・秋葉社例祭・地域住民における宮川河川敷の樹木・花の手入れ・毎年恒例の花見懇親会・景観地域の美化、下三之町全体の防災訓練
会の実績：朝市通りの道路舗装工事
26年度下三之町本通りの道路側溝修繕工事・江名子川改修工事
ひとこと：当保存地域は屋台組を中心とし、歴史・伝統文化を重んじる地域です。昔から住民の絆も深く、民家・店舗が混在しています。上町の古い町並から日下部民藝館・吉島家住宅が並ぶ越中街道に至る通過道路であり、宮川朝市を訪れる観光客でにぎわいます。次の世代へと継承すべく、清掃・美化・景観保全に努めています。